J.LEAGUE 20th Anniversary
OFFICIAL NEWS LETTER
J.LEAGUE
スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想
31 May 2013 Vol.205

J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ20周年記念パーティー会場のディスプレー

Jリーグが開幕20周年を迎える

さまざまな記念イベントを開催。20年を振り返り、さらなる発展へ気持ちを新たに

Jリーグは、1993年5月15日に国立競技場で行われたヴェルディ川崎（現 東京ヴェルディ）vs 横浜マリノス（現 横浜F・マリノス）の開幕戦から、20周年を迎えた。5月には、自治体やスポンサー、サッカーの関係者などを招いて「Jリーグ20周年記念パーティー」を都内のホテルで開催した他、アニバーサリーマッチやトークセッション、写真展など、さまざまな記念イベントを実施。ファン・サポーターの投票による「Jクロニクルベスト」の結果も発表され、20年間のベストゴール、ベストマッチ、ベストイレブンが決まった。こうした催しを通して、これまでの歩みを振り返りながら、さらなる発展に向けて気持ちを新たにした。（2〜3、8ページに関連記事）

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS
Calbee　Canon　KONAMI　AIDEM　Coca-Cola　マクドナルド　JCB

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER：朝日新聞
J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER：東京エレクトロン
LEAGUE CUP SPONSOR：ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR：FUJI xerox
J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER：adidas
J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER：Johnson & Johnson
J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER：スカパー！
SPORTS PROMOTION PARTNER：toto
J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER：ぴあ

編集・発行 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

©J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ20周年記念パーティー

主催者を代表してあいさつする大東チェアマン。20年間にわたってJリーグを支えた全ての人々への感謝を述べた

「Jリーグ20周年記念パーティー」が5月17日、日本サッカー協会（JFA）名誉総裁の高円宮妃殿下をお迎えして、都内のホテルで開催された。Jクラブのホームタウン自治体、スポンサー、サッカー関係者など約1100人が集い、20年の節目を祝った。

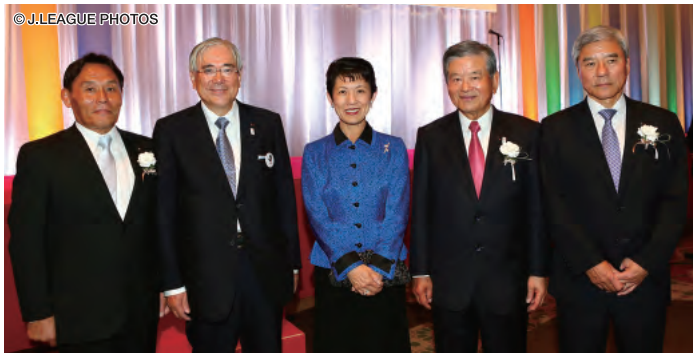
開会にあたり、Jリーグの大東和美チェアマンが「初心を忘れず、常にチャレンジ精神を持って、これからも力を合わせていく」と主催者を代表してあいさつ。続いて「開幕当初の初心に立ち返り、世界のリーグのトップ10に入り、Jリーグ百年構想の実現に向けて新たな一歩を踏み出すことを期待する」と初代Jリーグチェアマンの川淵三郎JFA最高顧問。1992年からリーグカップ戦の特別協賛を続ける、ヤマザキナビスコ株式会社の飯島茂彰 代表取締役社長が乾杯の発声を行った。

会の半ばには「Jクロニクルベスト」のベストイレブン（8ページ参照）が紹介され、選ばれた選手を代表して三浦知良（横浜FC）がステージへ上がり、川淵JFA最高顧問から記念品を贈呈された。また、1992～94シーズンに鹿島アントラーズでプレーし、2002～06年には日本代表監督も務めたジーコ氏が祝辞を述べた。

なお、パーティーの開会に先立って、川淵、鈴木 昌、鬼武健二、大東の歴代4チェアマンが記者会見を行い、それぞれの任期中の思い出などを語った。

リーグカップ戦を20年以上も特別協賛してきたヤマザキナビスコ株式会社の飯島社長が、乾杯の発声を行った

Jクロニクルベストのベストイレブンを代表して、三浦選手（右）が川淵JFA最高顧問から記念品を贈呈された



左から大東チェアマン、小倉純二JFA名誉会長、高円宮妃殿下、川淵JFA最高顧問、大仁邦彌JFA会長

Jリーグの歴史を彩った人々。左からジーコ氏、三浦選手、名古屋のストイコビッチ監督

20年前に開幕戦の実況を担当した元NHKアナウンサーの山本 浩氏が司会を務めた

Jリーグに関わった関係者ら約1100人が参集して大盛況の会となった

パーティーに先立ち、記者会見を行った歴代4チェアマン。左から鬼武（第3代）、大東（第4代）、川淵（初代）、鈴木（第2代）の各氏

開幕20周年を記念して

J.LEAGUE 20th Anniversary MATCH
2013.5.11 Saitama Stadium 2002
URAWA REDS vs KASHIMA ANTLERS

Jリーグ20thアニバーサリーマッチを開催。浦和と鹿島が熱戦

Jリーグがリーグ戦開幕20周年を記念し、5月11日のJ1リーグ戦第11節の全9カードの中から「Jリーグ20thアニバーサリーマッチ」として選定した浦和レッズ vs 鹿島アントラーズが、埼玉スタジアムに4万6649人の入場者を集めて開催された。

両クラブとも1993年のリーグ戦開幕時からJリーグに所属し、この20年間で最多入場者数を記録した浦和と、同じくリーグ戦で最多となる7回の優勝を誇る鹿島の対決。「Jリーグ20周年にふさわしいスペクタクルなサッカー」(鹿島のトニーニョ セレーゾ監督)を繰り広げた(試合は浦和が3−1で勝利)。

また、試合会場にはかつて両チームで活躍したポンテ氏(浦和)、アルシンド氏(鹿島)も来場し、ファン・サポーターから大きな拍手を受けた。2007シーズンにJリーグの最優秀選手賞を受賞したポンテは「日本サッカーのレベルは上がっている」、Jリーグの最初のシーズンに鹿島でプレーしたアルシンドは「(日本サッカーが)このまま成長してほしい」と、試合を見ての感想を述べた。

ファン・サポーターの声援に応えるポンテ(左)、アルシンドの両氏。ともに日本サッカーの成長を実感していた

Jリーグ開幕20周年記念イベント「J 20th NIGHT」を朝日新聞社と共催

興味深い意見の交換が行われたトークセッション

Jリーグは5月8日、Jリーグ百年構想パートナーである主催の朝日新聞社と、開幕20周年記念イベント「J 20th NIGHT」を有楽町朝日ホール(東京都千代田区)で共催した。会場には、無料で招待された500人以上の一般の人々も詰め掛け、イベントを熱心に見守った。

Jリーグの大東和美チェアマンの開会のあいさつに続き、第1部では「Jクロニクルベスト」の投票途中結果を発表。ベストゴール、ベストマッチ、ベストイレブンのトップ10を、映像で紹介した。

第2部では「私たちが作る『Next J20th』」と題したトークセッションを実施。スポーツジャーナリストの中西哲生氏が司会を務め、パネリストの名波 浩(元日本代表/ジュビロ磐田アドバイザー)、中西大介(Jリーグ理事)、小原爽子(日本経済研究所)、潮 智史(朝日新聞社編集委員)の各氏が、Jリーグの過去、現在、未来について、それぞれの立場から貴重な意見を述べ合った。また、Jリーグが誕生した1993年生まれの男女大学生20人が、ゲストオブザーバーとして参加した。

5月15日を「Jリーグの日」として記念日登録

Jリーグは、20年前に開幕戦が開催された5月15日を「Jリーグの日」として、日本記念日協会に登録した。

国立競技場で開催されたヴェルディ川崎(現 東京ヴェルディ) vs 横浜マリノス(現 横浜F・マリノス)のカードで、リーグ戦が開幕したのは1993年5月15日。Jリーグは20周年を迎えるにあたり、日本のスポーツ界にとって大きな転機となったこの日を、「日本にスポーツ文化を根付かせたい」というJリーグの変わらぬ意思とともに、後世の人々にも語り継ぐため、記念日登録することにした。

5月15日には国立競技場で行われた2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ予選リーグ第6節、FC東京 vs アルビレックス新潟のキックオフ前に、20周年を祝して、川淵三郎初代Jリーグチェアマンと大東和美チェアマンによる記念セレモニーが行われた。

20周年の記念セレモニーで、初代Jリーグチェアマンを務めた川淵 日本サッカー協会最高顧問がキックイン

Jリーグ20周年記念の写真展を開催。5月15日には東京タワーをライトアップ

Jリーグは5月11〜26日、リーグ戦開幕の1993年当時に参加していた10クラブのホームタウンと東京で、20年の歴史を振り返る記念写真展を開催した。「キャプテン翼」でおなじみの漫画家、高橋陽一先生が描き下ろした10クラブのキャラクターも展示された。また、同15日には東京会場となった東京タワーが、Jリーグをイメージした赤、白、黒、緑の4色でライトアップされた。

東京タワーのライトアップ(写真左)と写真展会場のエントランス(同上)

ファミリーJoinデイズ

Jリーグと Jクラブは、恒例となった「ファミリーJoin デイズ」のイベントを、ゴールデンウイークの期間を中心に、各地のリーグ戦試合会場で実施した。ことしで13回目の開催となった同イベントは、各クラブが趣向を凝らし、試合前に家族などで楽しめる多彩な企画が人気を集めている。ことしは天候に恵まれた会場も多く、時には夏を思わせる日差しの下、参加者は思い思いにイベントを満喫した。全40クラブが行ったイベントの中から、その一部を紹介しよう。

鹿島アントラーズ

県立カシマサッカースタジアムでは「お天気とJoin晴天祈願」を実施した。ファン・サポーターがユニークなてるてる坊主を作って持参。梅雨の季節に向かってホームゲームがお天気に恵まれるようにと、祈りを込めて設置台に結び付けた。

5月6日 鹿島 vs 湘南

東京ヴェルディ

Mr.ピッチや、ヴェルディ君、対戦相手の横浜FCのフリ丸といったクラブマスコットをはじめ、稲城市のなしのすけ、ゆりーとや横浜市のハマくんなどキャラクターが勢ぞろい。味の素スタジアムの正面入り口で子どもたちを出迎え、記念撮影などを行った。

5月3日 東京V vs 横浜FC

湘南ベルマーレ

Shonan BMWスタジアム平塚では、芝生に関するさまざまなイベントを実施。試合前には、普段はなかなか足を踏み入れることができないピッチの上で、子どもたちが寝転んだり、親子でボールを蹴り合うなど、自由に遊び、楽しく体を動かした。

© J.LEAGUE PHOTOS
5月3日 湘南 vs C大阪

ヴァンフォーレ甲府

山梨中銀スタジアムでは、子どもたちが「よっちゃヴァれファミリー」～ヴァンのぼり、フォーレのぼり、青赤兜を作ろう！～のイベントを楽しんだ。自分で作ったクラブカラーの青赤兜をかぶり、こいのぼりを手にして、子どもたちはご機嫌。

© J.LEAGUE PHOTOS
5月3日 甲府 vs 磐田

ジュビロ磐田

ヤマハスタジアム（磐田）では「ジュビロ シーパラダイス」～アザラシのチーズちゃん&ペンギンのぎんちゃんと遊ぼう～を開催。移動動物園からゴマフアザラシやケープペンギン、かわいい小動物などが大集合。餌やりなどで子どもたちと触れ合った。

© J.LEAGUE PHOTOS
4月27日 磐田 vs 湘南

サンフレッチェ広島

エディオンスタジアム広島では、母の日（ことしは5月12日）にちなんで「ファミリーで、母の日のプレゼントを作ろう！」の各種イベントを実施した。クラブカラーである紫のかわいいガラス細工を使ったブレスレット作りに、ファミリーで取り組んだ。

5月11日 広島 vs 大分

サガン鳥栖

ベストアメニティスタジアムでは「ベアスタの中心で家族への思いを叫ぶ！」を開催。家族への思い、愛情などを大きな声で表現し、声の大きさを測定器で測るコンテスト。出場者には参加賞の他、スポンサーの協力で優秀者にプレゼントが贈られた。

5月3日 鳥栖 vs F東京
© J.LEAGUE PHOTOS

V・ファーレン長崎

長崎県立総合運動公園陸上競技場では「親子で鯉のぼりを作ろう！」のイベントが行われた。こどもの日を前に、親子でこいのぼり作りに挑戦し、選手たちも協力。子どもたちは一生懸命に作ったこいのぼりを振って、スタンドでチームを応援した。

© J.LEAGUE PHOTOS
5月3日 長崎 vs 北九州

TOPICS トピックス（4月17日～5月22日）

※各項目の詳細については、Jリーグ公式ホームページ（http://www.j-league.or.jp）を参照

「東日本大震災復興支援 2013Jリーグスペシャルマッチ」

被災地選抜「JリーグTEAM AS ONE」チームと「Jリーグ選抜」チームが対戦

東日本大震災復興支援 2013 J.LEAGUE SPECIAL MATCH June 16th at Tokyo National Stadium

Jリーグは、6月16日（日）に国立競技場で開催する、「東日本大震災復興支援 2013 Jリーグスペシャルマッチ」を、被災地にゆかりのある選手を選抜した「Jリーグ TEAM AS ONE」チームと、その他の選手で構成された「Jリーグ選抜」チームの対戦で実施することを決定した。

昨年より開催しているスペシャルマッチは、JリーグとJクラブの復興支援活動を、より多くの人々に知ってもらうとともに、一人でも多くの方々にJリーグを通して復興支援活動に参加いただきたいと企画された大会。本年は被災地から離れている方々にも継続した復興支援活動の大切さを伝えられるよう、東京の国立競技場で開催する。

大会概要	
大会名称	東日本大震災復興支援 2013Jリーグスペシャルマッチ
開催日時	2013年6月16日（日） 15:00キックオフ（予定）
会　場	国立競技場（東京都新宿区）
主　催	公益財団法人 日本サッカー協会／公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
共　催	一般社団法人 日本プロサッカー選手会／一般社団法人 Jリーグ選手OB会
主　管	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ／公益財団法人 東京都サッカー協会
協　力	株式会社コナミデジタルエンタテインメント アディダス ジャパン株式会社／株式会社モルテン
対　戦	Jリーグ TEAM AS ONE vs Jリーグ選抜

ヤマザキナビスコカップは8強決定。柏はACLで準々決勝進出

2013 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP

2013Jリーグヤマザキナビスコカップは5月22日に予選リーグが終了し、決勝トーナメントを戦う8チームが決定。また、AFCチャンピオンズリーグ（ACL）2013では、日本勢で唯一、グループステージを突破した柏レイソルが準々決勝に進出した。

ヤマザキナビスコカップは、予選リーグBグループの鹿島アントラーズとセレッソ大阪が、15日の第6節で決勝トーナメント進出を決めた。続いて22日の最終（第7）節で、Aグループの横浜F・マリノスの1位、川崎フロンターレの2位が確定。この4チームが、ACLグループステージ参加で予選リーグ出場を免除されたベガルタ仙台、浦和レッズ、柏レイソル、サンフレッチェ広島とともに準々決勝を戦う。準々決勝はホーム&アウェイで、6月23日（日）、同30日（日）に開催される。

AFC CHAMPIONS LEAGUE

柏はラウンド16で全北現代モータース（韓国）と対戦し、アウェイの第1戦を2−0、ホームの第2戦を3−2と制した。準々決勝もホーム&アウェイで、第1戦が8月21日（水）、第2戦が9月18日（水）に行われる予定。

Jリーグ アジアアンバサダー就任決定

©高橋陽一／集英社

Jリーグは、Jリーグアジア戦略の一環として、人気漫画「キャプテン翼」の主人公である大空 翼をJリーグアジアアンバサダーとして任命した。任期は2013年5月～2014年4月末日の1年間で、同プロパティーをJリーグアジア戦略活動時の告知、制作物、イベント開催時のアイコンとして使用。Jリーグへの親近感の醸成、現地でのコミュニケーションの円滑化を目的とする。

Jリーグアジアアンバサダーは、Jリーグアジア戦略の理念を日本国内のみならず、アジア各国で多くの人々に伝え、各国で行う記者会見、サッカークリニックなどに参加する。これまでに、木場昌雄、丸山良明、田部和良の3氏が任命されている。

開幕から通算でリーグ戦10,000試合開催を達成

4月28日に開催したJ2リーグ戦第11節第1日で、1993年5月15日の開幕から開催したリーグ戦（J1、J2）の試合数が10,000試合を超えた。これについて、Jリーグの大東和美チェアマンは「リーグ戦通算10,000試合という節目を迎えることができた。これからも、より多くの皆さまにサッカーの魅力を届けるべく、まい進していく」とのコメントを寄せた。

平成25年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を後援、および「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動を協賛

Jリーグは、5月21日に開催した理事会で、平成25年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動（主催：厚生労働省、都道府県、公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター）の後援について、また、同運動に併せて行われる「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動（主催：公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター）への協賛を昨年に引き続き実施することを決定した。

「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」を新設 ～Jリーグ公認のJ1、J2リーグ戦MVPを毎月表彰～

Jリーグは、Jリーグトップパートナーである日本コカ・コーラ株式会社（東京都渋谷区／代表取締役社長 ティム・ブレット、以下コカ・コーラ）とともに、各月のリーグ戦（J1、J2）において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」を新設した。Jリーグ公認の賞として月間MVPを表彰するのは、本賞が初めてとなる。

すでに終了した3、4月の受賞選手は、3月のJ1がMF中村俊輔（横浜F・マリノス）、同J2がFWポポ（ヴィッセル神戸）、4月のJ1がFWズラタン（大宮アルディージャ）、同J2がFWレアンドロ（ガンバ大阪）となった。

コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP 概要	
名　称	コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP （Coca-Cola J.LEAGUE MONTHLY MVP）
対象大会	2013シーズンのJ1・J2リーグ戦 ※Jリーグヤマザキナビスコカップは対象外
対象選手	上記大会に出場した全選手
選考基準	各月のリーグ戦（J1、J2）において最も活躍した選手
選考方法	サッカー専門メディア（週刊サッカーマガジン、週刊サッカーダイジェスト、ストライカー、エルゴラッソ、Jリーグサッカーキング）が、J1、J2それぞれでFW、MF、DF、GKから1人ずつを投票。Jリーグを加えた選考委員会が、候補選手の中からJ1、J2の各1人を「月間MVP」として選定する。
賞　金	J1：30万円、J2：20万円
発表／表彰	当該月の翌月第1週に表彰選手と選考理由を発表。発表後、当該月の翌月第3週をめどに、受賞選手所属クラブの直近のホームゲームで試合開始前に表彰する。 ※試合スケジュールなどにより表彰日が変更となることがある。※表彰日は決定次第、毎月発表

©J.LEAGUE PHOTOS

©J.LEAGUE PHOTOS

「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」の表彰を受けた中村（写真左）とズラタン

4月の月間最優秀ゴール賞

J1：第8節（4月27日）、アルビレックス新潟 vs 鹿島アントラーズ、MF柴崎 岳（鹿島）、6分の得点
J2：第7節（4月7日）、ファジアーノ岡山 vs コンサドーレ札幌、FW荒田智之（岡山）、17分の得点

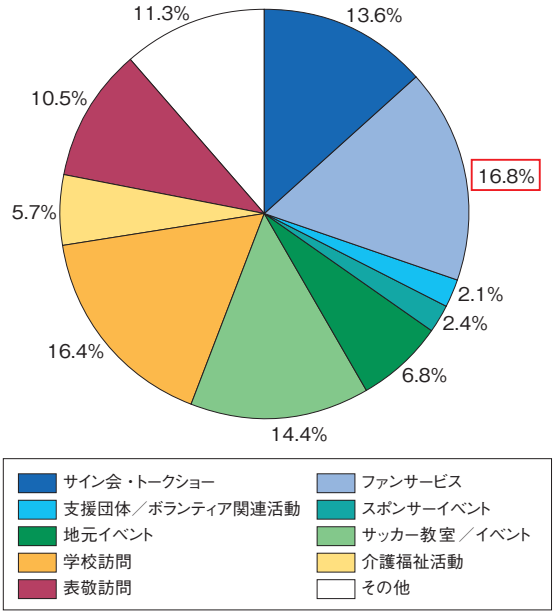
2012 Jリーグ選手等ホームタウン活動調査

Jリーグは、Jクラブに所属する選手、監督などが、2012年1～12月にホームタウン活動に参加した状況を発表した。この調査は、各クラブのホームタウン担当者が、アンケートに入力して提出する活動記録を集計したもので、ホームタウン活動への参加状況を時間・場所など詳細に把握したもの。クラブ間で情報を共有し、今後の活動に結び付けるなどの目的がある。Jリーグは今後も、このような集計を通して選手、監督・コーチ、クラブ関係者のホームタウン活動を推進していく。（ここに紹介するのは調査結果の一部）

活動ジャンル

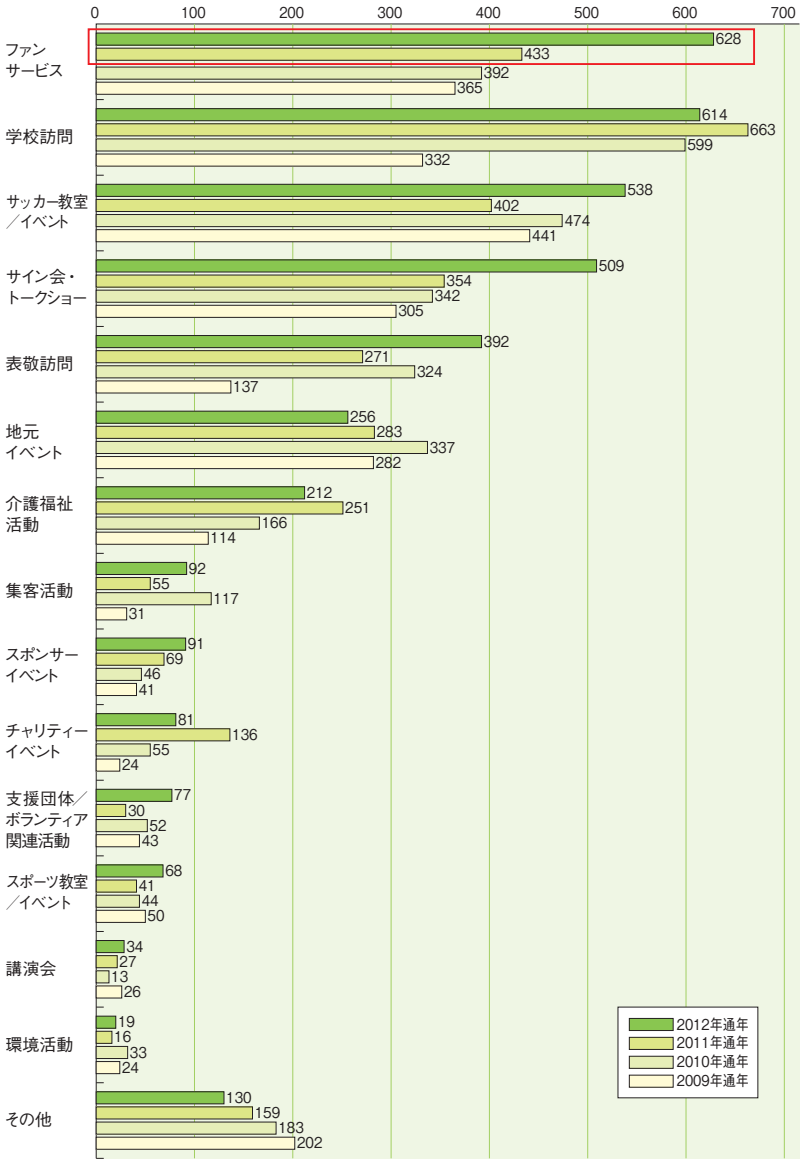
◆2012年内訳

- 最も多い活動は「ファンサービス」。2割弱を占め、「学校訪問」を抜きトップに。
- 次いで、「学校訪問」「サッカー教室／イベント」「サイン会・トークショー」「表敬訪問」と続く。
- 「表敬訪問」は「地元イベント」を抜き、約1割を占める。
- 「その他」の活動には「集客活動」「チャリティーイベント」「環境活動」の他、「食育」や「必勝祈願」「商店会／サポーティングショップ挨拶回り」「クラブへの応援品、義援金贈呈式」なども含まれる。



◆2012年／2011年／2010年／2009年比較

- 「ファンサービス」が、前年から大きく増加し、最も多い活動となった。
- 「学校訪問」は増加傾向にあったものの、2012年は減少し、2位。
- 3位の「サッカー教室／イベント」は2011年に減少したものの、再び増加している。
- 活動の多い上位5ジャンルのラインアップに変動はない。
- この他、2011年比で大きく増加した活動は、「サイン会・トークショー」「表敬訪問」がある。



活動ジャンル別サマリー

サイン会・トークショー（13.6%）

- 2008年から増加傾向で、12年は大きく増加。全体で4番目に多い活動となっている。
- 対象は7割弱がファン・サポーター。
- クラブ主催が大半を占めるが、スポンサーの主催で行うものも2割弱に上り、増加傾向。
- スタジアム開催のケースが多く、5割程度を占める。街頭／商業施設で行うケースが2割強と増加。
- シーズン中の3～11月はコンスタントに行われている。

ファンサービス（16.8%）

- 2009年から増加傾向で、12年は大きく増加。「学校訪問」を上回り、12年で最も多い活動となる。
- 対象はファン・サポーターを中心としており、約8割を占める。他の対象は小学生（のファン）など。
- クラブ主催が大半を占めるが、スポンサー主催も1割ほどある。
- スタジアムで開催されることが多く、約6割を占める。次いで、街頭／商業施設が2割ほど。
- 年間を通して活動を行っている。

支援団体／ボランティア関連活動（2.1%）

- 活動数は2012年から増加。
- 半数がクラブ主催、残りの過半数を後援会自らが主催している。
- 一般貸しスペースやスタジアムで活動。
- 2012年は5月の活動が最も多くなった。

スポンサーイベント（2.4%）

- 活動数は2009年から増加傾向。
- クラブが主催となっているケース以外に、スポンサー自身が主催の場合が約4割ある。
- 主に一般貸しスペースを利用して開催しているが、企業での開催もある。
- Jリーグのシーズン開幕前の2月、シーズン終了後の12月に活動が集中している。

地元イベント（6.8%）

- 活動数は2010年度から2年連続で減少。
- 地域住民を対象にしたものが半数以上で、次に不特定の人を対象にしたイベントが続く。
- 行政主催のイベントが約3分の1を占め最も多い。この他、クラブ、スポンサー、自治会／商店街による活動もある。
- 街頭／商業施設で全体の約半数が行われ、次いでスポーツ施設／公園で行われるケースも多い。
- 7、8月に加え、10～12月の活動も多い。

サッカー教室／イベント（14.4%）

- 2012年から活動数が大きく増加。全体で3番目に多い活動となっている。
- 対象は小学生以下の児童が約7割を占め、保護者が1割強を占める。
- クラブ主催が半数を占める。スポンサー、行政による活動も多い。
- スポーツ施設／公園で実施するものが最も多い。
- 年間を通じて実施されているものの、特に7～12月の活動が多い。

学校訪問（16.4%）

- 2008年から増加傾向にあったが、12年は減少。2番目に多い活動となっている。
- 9割が小学生以下の児童を対象とした活動で、幼稚園への訪問も含まれる。中学生以上を対象としたものもある。
- クラブ主催が大半を占めるが、行政主催の場合も1割ほどある。
- 6、7月と夏休みを挟んで、9～11月の開催が多い。

介護福祉活動（5.7%）

- 活動数は2011年から減少。
- 約半数が養護学校や病院などの小学生以下を対象にした活動。次いで、高齢者や障がい者を対象にしたものが多い。
- クラブ主催が活動のほとんどを占める。
- 活動場所は福祉施設や病院で行われる活動がほとんどを占めるが、スタジアムでの開催も1割ほどある。
- 活動数はシーズン終了後の11、12月がやや多くなっている。

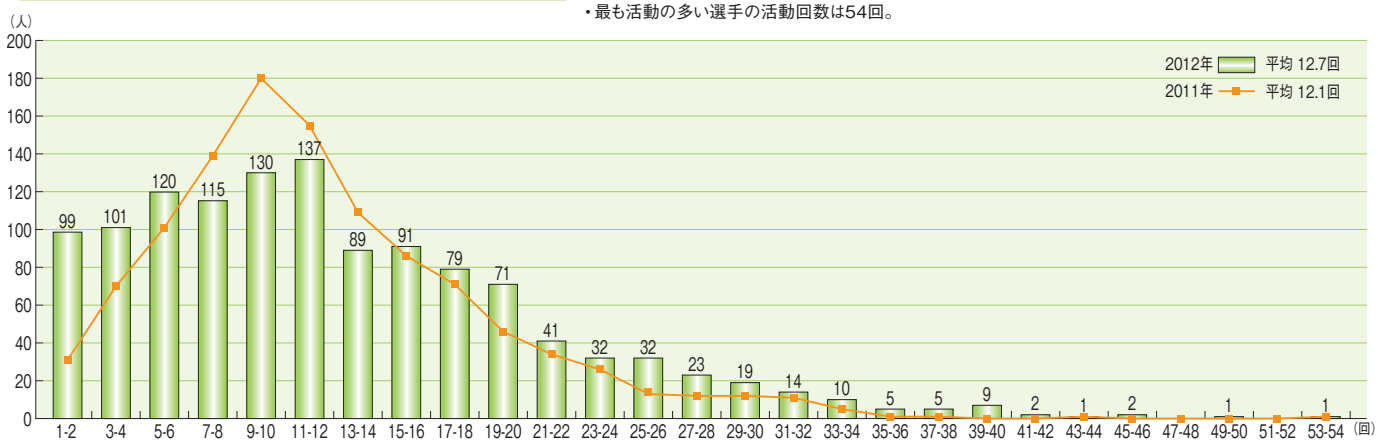
表敬訪問（10.5%）

- 活動数は2011年より大きく増加。
- スポンサーを対象とした活動が約6割、行政を対象とした活動が約3割を占める。
- 2012年はシーズン前の1月の活動が最も多くなっている。次いで、シーズン終了の12月。

選手の活動

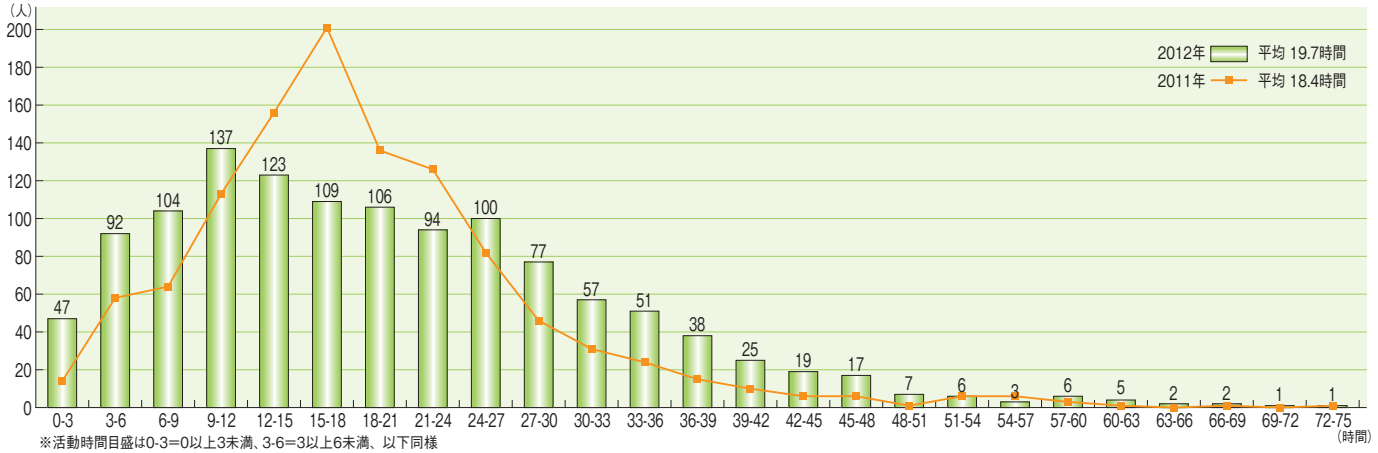
◆2012年活動回数分布（2011年比較）

・選手ひとりの活動回数は、11-12回がピークとなっている。2011年は9-10回が最多となっていた。
・平均活動回数は、12.7回となり、2011年と比較して0.6回の増加となった。
・最も活動の多い選手の活動回数は54回。



◆2012年活動時間分布（2011年比較）

・選手の活動時間は2011年に比べ分散傾向。
・3-9時間の短時間活動選手、27-48時間の長時間活動選手が増えている。
・結果的に、2011年に比べて、平均1.3時間の増加となった。　・最も多い選手の活動時間は、74時間。

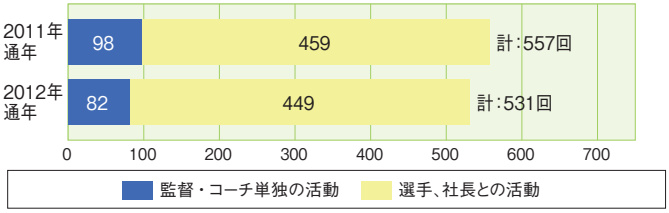


※活動時間目盛は0-3=0以上3未満、3-6=3以上6未満、以下同様

監督・コーチ／社長の活動

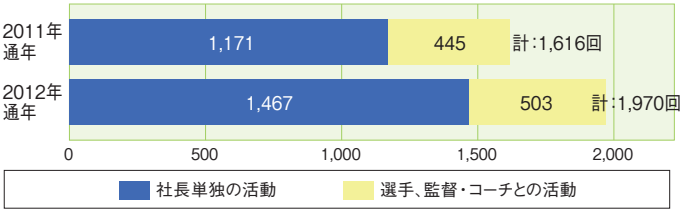
◆2012年 監督・コーチの活動

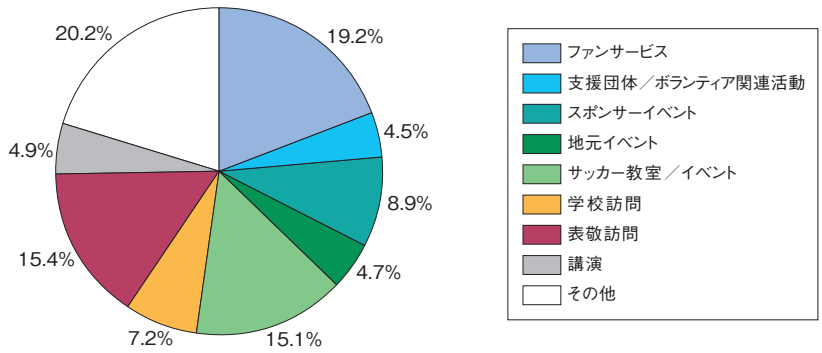
・監督・コーチの活動数は2011年と比べて減少している。
・監督・コーチが単独で行動するケースは、全体の1割強。2010年の約2割に比べ、減少している。
・活動ジャンルで最も多いのは「ファンサービス」、次いで「表敬訪問」「サッカー教室／イベント」の順になっている。
・「その他」には、必勝祈願、クラブへの贈呈式などが含まれる。



◆2012年 社長の活動

・社長の活動数は、2011年と比べて大きく増加。
・社長単独での活動が全体の7割強で、やや増加傾向。
・活動ジャンルは2011年とほぼ同様の傾向。最も多い「地元イベント」には、地域の会議への出席の他、新年会や交歓会などへの参加も含まれる。「地元イベント」を主催する「行政」や「自治会・商店街」との連携強化活動が多いことが分かる。
・「その他」には、監督・コーチと同じく必勝祈願、クラブへの贈呈式などが含まれる。





Jリーグ20周年記念企画

「Jクロニクルベスト」最終投票結果発表

Jリーグは5月17日、開幕20周年を記念して実施した、過去20年間の「ベストゴール」「ベストマッチ」「ベストイレブン」をサポーター投票で決定する「Jクロニクルベスト」の最終投票結果を発表した。

「ベストゴール」に選ばれたのは、1995シーズンにMFレオナルド（鹿島アントラーズ）が巧みなテクニックを披露して決めた得点。4106票を獲得し、2位に2千票以上の差をつけて1位を獲得した。「ベストマッチ」は2006シーズンのJ1リーグ戦第34節、浦和レッズ vs ガンバ大阪。「ベストマッチ」の得票上位10試合は、Jリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナーのスカパー!で、「スカパー! Jクロニクルベストマッチ」として放送される。また、「ベストイレブン」のうち、現在もJリーグでプレーするのは5人の選手。最多得票はFW三浦知良（横浜FC）の5852票で、外国籍選手では唯一、名古屋グランパスエイト（現 名古屋グランパス）でプレーしたFWストイコビッチ（現名古屋監督）が選ばれた。

「Jクロニクルベスト」はインターネット上で、リクエストを参考に選んだ対象シーンのハイライトムービーなどから投票する方式で、ことしの1月15日から5月15日に投票を受け付けた。本選投票（1月15日～4月30日）の総票数は19万9697票（ベストゴール 2万6413票／ベストマッチ 5380票／ベストイレブン 16万7904票）、同じく決選投票（5月8～15日）は13万4059票（ベストゴール 1万6458票／ベストマッチ 1万497票／ベストイレブン 10万7104票）。投票の詳細な結果は、Jリーグ公式ホームページに掲載。

ベストゴール　レオナルド（鹿島アントラーズ）

自在にボールを扱い、見事な得点を決めたレオナルド

1995シーズンのNICOSシリーズ第19節、県立カシマサッカースタジアムで行われた対横浜フリューゲルス戦で決めた得点。ゴール正面、ペナルティーエリアの端付近でパスを受けると、相手選手に囲まれながらも巧みにボールを浮かしてかわし、最後はワンバウンドしたところを左足のシュートで決めた。

ベストイレブン

ポジション	選手名	所属チーム
GK	川口　能活	ジュビロ磐田
DF	松田　直樹	横浜F・マリノス
	中澤　佑二	横浜F・マリノス
	井原　正巳	浦和レッズ
MF	遠藤　保仁	ガンバ大阪
	中田　英寿	ベルマーレ平塚
	中村　俊輔	横浜F・マリノス
	名波　浩	ジュビロ磐田
FW	三浦　知良	横浜FC
	中山　雅史	コンサドーレ札幌
	ストイコビッチ	名古屋グランパスエイト

※所属チームは現在、またはJリーグ最終所属（当時表記）

ベストマッチ　浦和レッズ vs ガンバ大阪

2006年12月2日に、埼玉スタジアム2002で行われた2006シーズンのJ1リーグ戦第34節。優勝を懸けて両チームが最終節で直接対決。G大阪が先制するも、浦和が3−2の逆転勝ちを飾り、初優勝を達成した。6万2241人の入場者は、現在もリーグ戦の最多入場者記録となっている。

スタジアムを埋めた満員の入場者が好試合を演出した

競り合う浦和の山田暢久（左）とG大阪の宮本恒靖

46歳になった今も元気なプレーを見せる三浦